

# 社会福祉法人土佐七郷会 定 款

## 第一章 総 則

### (目的)

第1条 この社会福祉法人(以下「法人」という。)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

#### (1)第一種社会福祉事業

(イ)障害者支援施設の経営

#### (2)第二種社会福祉事業

(イ)障害福祉サービス事業の経営

(ロ)相談支援事業の経営

### (名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人土佐七郷会という。

### (経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

### (事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を高知県幡多郡黒潮町加持33番地に置く。

## 第二章 評議員

### (評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上8名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、職員1名、外部2名の合計4名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結までとし、再任は妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、各年度の総額が500,000円を越えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

### 第三章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

- 2 評議員会に議長を置く。
- 3 議長は、その都度評議員の互選で定める。

(権限)

第10条 評議員会は、次の次項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額

- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類(貸借対照表及び収支計算書)の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又は定款で定められた事項

#### (開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

#### (招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

#### (決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別な利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別な利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当る多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の議決を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、評議員会の決議があったものとみなす。

#### (議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに署名又は記名押印する。

## 第四章 役員及び職員

### (役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 6名以上7名以内

(2) 監事 2名以上

2 理事のうちから1名を理事長とする。

3 理事長以外の理事のうち、1名以上2名以内を業務執行理事とする。

### (役員の選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

### (理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及び定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び業務執行理事は、3箇月に1回以上、自己の職務執行の状況を理事会に報告しなければならない。

### (監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務執行を監査し、法令に定めるところにより、監査報告書を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

### (役員の任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任は妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任による退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員の解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員の報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬額等として支給することができる。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員(以下「施設長等」という。)は、理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設長以外の職員は、理事長が任免する。

## 第五章 顧問

(顧問)

第23条 この法人には顧問を若干名おくことができる。

- 2 顧問は理事会の議決を経て、理事長が委嘱する。
- 3 顧問は理事長の諮問に応じ、理事会に助言を与えることができる。

## 第六章 理事会

(構成)

第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第25条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第26条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案について異議を述べたときを除く。)は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

## 第七章 資産及び会計

(資産の区分)

第29条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の二種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 建 物

高知県幡多郡黒潮町加持字ハリメキ33番地所在の鉄骨造コンクリート瓦葺

2階建大方誠心園々舎 3, 117.20㎡外4棟(3, 825.24㎡)

イ. 鉄骨造コンクリート瓦葺二階建 3, 117.20㎡

ロ. 黒潮町奥湊川字森ノ下2235番地所在の鉄骨造鋼板葺平屋建

大方誠心園作業棟 198.04㎡

ハ. 黒潮町奥湊川字森ノ下2235番地附属建物、鉄骨造鋼板葺平屋建作業棟

120.00㎡

ニ. 黒潮町奥湊川字森ノ下2235番地附属建物、鉄骨造鋼板ぶき平屋建作業棟

48.00㎡

ホ. 黒潮町浮鞭字ヤモウヂ山3635番地2所在の鉄骨造合板メッキ鋼板ぶき

平屋建 342.00㎡

- ② 高知県幡多郡黒潮町田野浦字沢ノ久保 5 1 8 番地所在の鉄骨造合板メッキ鋼板ぶき 2 階建大方生華園々舎 1, 7 4 1. 5 6 m<sup>2</sup>外 7 棟(2, 7 5 5. 6 7 m<sup>2</sup>)
- イ. 鉄骨造合板メッキ鋼板ぶき 2 階建 1. 7 4 1. 5 6 m<sup>2</sup>
- ロ. 鉄骨造スレート葺 2 階建 2 0 2. 8 6 m<sup>2</sup>
- ハ. 鉄骨造スレート葺 平屋建 6 6. 4 7 m<sup>2</sup>
- ニ. 鉄筋コンクリート・木造瓦葺 2 階建 1 6 9. 0 2 m<sup>2</sup>
- ホ. 鉄骨造スレート葺 2 階建 1 7 4. 8 5 m<sup>2</sup>
- ヘ. 鉄骨造鋼板葺 2 階建 1 2 0. 7 2 m<sup>2</sup>
- ト. 木造鋼板ぶき 2 階建 1 8 2. 1 8 m<sup>2</sup>
- チ. 鉄骨造合板メッキ鋼板ぶき平屋建 9 8. 0 1 m<sup>2</sup>
- ③ 高知県幡多郡黒潮町入野字井ノ谷山 5 1 9 1 番地 2 2 所在の木造鋼板ぶき平屋建 ケアホーム「にしきの」 1 5 4. 5 8 m<sup>2</sup>外 1 棟(7 7 0, 5 8 m<sup>2</sup>)
- イ. 木造鋼板ぶき 平屋建 1 5 4. 5 8 m<sup>2</sup>
- ロ. 鉄骨造合板メッキ鋼板ぶき 2 階建 6 1 6. 0 0 m<sup>2</sup>
- ④ 高知県幡多郡黒潮町浮鞭字ヤモウヂ山 3 6 3 5 番地 2 所在の木造鋼板ぶき平屋建 ケアホーム「こそで」(1 5 4. 5 8 m<sup>2</sup>)
- イ. 木造鋼板ぶき 平屋建 1 5 4. 5 8 m<sup>2</sup>

(土 地)

- ① 高知県幡多郡黒潮町奥湊川字森ノ下 2 2 4 3 番 1 外 5 筆所在の「生活介護事業所みなとがわ」敷地他 (5, 7 9 6. 7 0 m<sup>2</sup>)
- イ. 2 2 4 3 番 1 3 1 4. 4 6 m<sup>2</sup>
- ロ. 2 2 4 4 " 1 1, 8 5 2. 0 0 m<sup>2</sup>
- ハ. モリダバ 2 0 1 2 " 1, 4 0 7. 0 0 m<sup>2</sup>
- ニ. 森ノ下 2 2 4 2 " 1 2 6 2. 2 4 m<sup>2</sup>
- ホ. " 2 2 3 5 " 1, 8 5 6. 0 0 m<sup>2</sup>
- ヘ. " 2 2 3 7 " 1 0 5. 0 0 m<sup>2</sup>
- ② 高知県幡多郡黒潮町加持字 3 3 番地外 7 筆所在の障害者支援施設大方誠心園敷地他 (8, 3 2 0. 5 9 m<sup>2</sup>)
- イ. 3 3 番 3, 4 7 8. 0 0 m<sup>2</sup>
- ロ. 3 0 " 2 2 1 2. 0 0 m<sup>2</sup>
- ハ. 加持字池田 1 4 " 2 8 6. 0 0 m<sup>2</sup>
- ニ. " 1 6 " 3 1 9. 0 0 m<sup>2</sup>
- ホ. " 1 8 " 3 1 1. 0 0 m<sup>2</sup>

へ.	浮鞭字ヤモウヂ山	3 6 3 8	〃	1	9 9 1. 0 0 m <sup>2</sup>
ト.	〃	3 6 3 8	〃	2	1, 2 8 9. 0 0 m <sup>2</sup>
チ.	〃	3 6 3 5	番	2	2, 2 3 4. 5 9 m <sup>2</sup>

③ 高知県幡多郡黒潮町田野浦字沢ノ久保 5 2 0 番外 9 筆所在の障害者支援施設  
大方生華園敷地他 (4, 9 9 1. 1 3 m<sup>2</sup>)

イ.	5 2 0	番	2	7 3. 0 0 m <sup>2</sup>
ロ.	5 2 4	〃		2, 1 1 7. 1 3 m <sup>2</sup>
ハ.	5 1 8	〃		3 4 0. 0 0 m <sup>2</sup>
ニ.	5 1 9	〃		7 0 6. 0 0 m <sup>2</sup>
ホ.	5 2 0	〃	1	1 5 9. 0 0 m <sup>2</sup>
へ.	田野浦字塩入	3 4 9 3	〃	1 3 2. 0 0 m <sup>2</sup>
ト.	5 3 0	〃	1	7 2. 0 0 m <sup>2</sup>
チ.	5 2 3	〃	1	5 4 5. 0 0 m <sup>2</sup>
リ.	田野浦字三拾田上切	5 3 1	〃 1	4 9 9. 0 0 m <sup>2</sup>
ヌ.	田野浦字塩入	3 4 9 5	〃	3 4 8. 0 0 m <sup>2</sup>

- 3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。
- 4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第 3 0 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、高知県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合は、高知県知事の承認は必要としない。

1. 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
2. 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)

(資産の管理)

第 3 1 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。



(事業計画及び収支予算)

第32条 この法人の事業計画書、収支予算書類については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第33条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1)事業報告

(2)事業報告の附属明細書

(3)貸借対照表

(4)収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)

(5)貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書

(6)財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第34条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第35条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第36条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第八章 解 散

(解散)

第 37 条 この法人は、社会福祉法第 46 条第 1 項第 1 号及び第 3 号から 6 号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第 38 条 解散(合併又は破産による解散を除く。)した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人に帰属する。

## 第九章 定款の変更

(定款の変更)

第 39 条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、高知県知事の認可(社会福祉法第 45 条の 36 第 2 項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。)を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を高知県知事に届け出なければならない。

## 第十章 公告の方法その他

(公告の方法)

第 40 条 この法人の公告は、社会福祉法人土佐七郷会の掲示板に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第 41 条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

## 附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員の選任を行うものとする。

理事長	佐々木	武雄
理 事	田辺	幾弘
理 事	松田	卓
理 事	金子	忠雄
理 事	柿内	敏子
理 事	酒井	三郎
理 事	野村	卓一

- 2 評議員会設置当初にあつては、評議員の任期を平成15年5月30日から平成17年3月31日までとする。
- 3 平成27年6月25日付けの定款変更の認可申請に伴い増員された理事1名・評議員2名の任期は、定款第7条第1項、第18条第1項の規程にかかわらず認可後から平成29年3月31日までとする。
- 4 この定款は平成29年4月1日から施行する。

## 評議員の選任・解任委員会

社会福祉法等の一部を改正する法律により、評議員会を法人運営の重要事項を決議する必置の機関となります。適正な法人運営を確保するためには、重要な立場にある評議員には、社会福祉法人の運営に必要な見識を有し、理事等の業務執行を適正に監督・牽制することができる者が選任されることが重要です。

### 【評議員の選任及び解任】

#### ア 評議員の選任及び解任方法について

評議員の選任及び解任の方法については、法第31条第1項第5号において、法人が定款で定めることとしているが、同法第5項において理事又は理事会が評議員を選任・解任する旨の定めは無効とされています。

定款で定める方法としては、法人関係者でない中立的な立場にある外部の者が参加する機関を設置し、この機関の決定に従うことが求められています。

#### イ 最初の評議員の選任について

評議員については、平成29年4月1日までに、あらかじめ、法第39条の規定の例により選任しておかなければならないとされている。このため、社会福祉法人においては、同日までに、上記アの趣旨を踏まえた評議員の選任方法を記載した定款の変更を行った上で、当該変更後の定款に基づき評議員を選任しておく必要があります。

### 【評議員の資格等】

#### ア 社会福祉法人の適正な運営に必要な見識を有する者

社会福祉法人の評議員については、法第39条において「社会福祉法人の適正な運営に必要な識見を有する者」のうちから選任することとしており、以下の(イからエ)の要件に適合し、法人において「社会福祉法人の適正な運営に必要な識見を有する者」として適正な手続きにより選任されている限り、制限を受けるものではない。

#### イ 評議員の欠格事由

評議員となることができない者は、次に掲げる者である。(法第40条第1項)

- ① 法人(同項第 1 号)
  - ② 成年後見人又は被保佐人(同項第 2 号)
  - ③ 生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法又は法の規定に違反して刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者(同項 3 号)
  - ④ ③に該当する者を除くほか、禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者(同項第 4 号)
  - ⑤ 所轄庁の解散命令により解散を命ぜられた社会福祉法人の解散当時の役員(同項第 5 号)
- ウ 評議員の兼務禁止
- 評議員は、理事及び監事の選任・解任を通じて、理事等の業務執行を監督する立場にあるため、自らが評議員を務める法人の理事、監事又は職員を兼ねることはできない(法第 40 条第 2 項)
- エ 評議員には、各評議員又は各役員の配偶者又は三親等以内の親族が含まれてはならないことに加え、各評議員を務める法人の理事、監事又は職員を兼ねることはできない(法第 40 条第 2 項)